

Society 5.0 認知度調査

Society 5.0 認知度調査

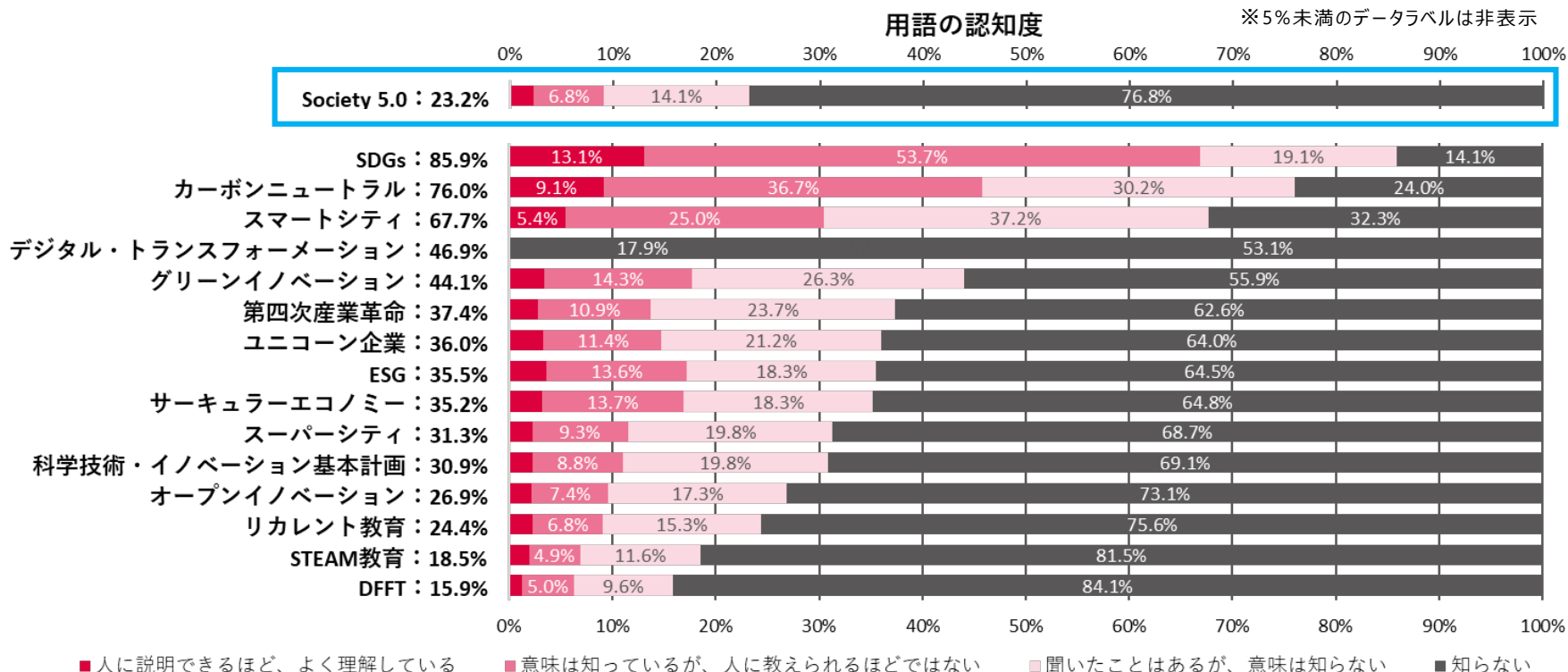
調査概要

- 調査方法：webアンケート
- 調査期間：2021年10月22～24日
- 有効回答数：3,500件（性別年代均等割付） ※16歳～89歳を対象とし、10代～70代以上の7区分（70歳～89歳は「70代以上」とした）

調査結果

Society 5.0の認知度は23.2%

※認知度：「人に説明できるほど、よく理解している」「意味は知っているが、人に教えられないほどではない」「聞いたことはあるが、意味は知らない」の合計



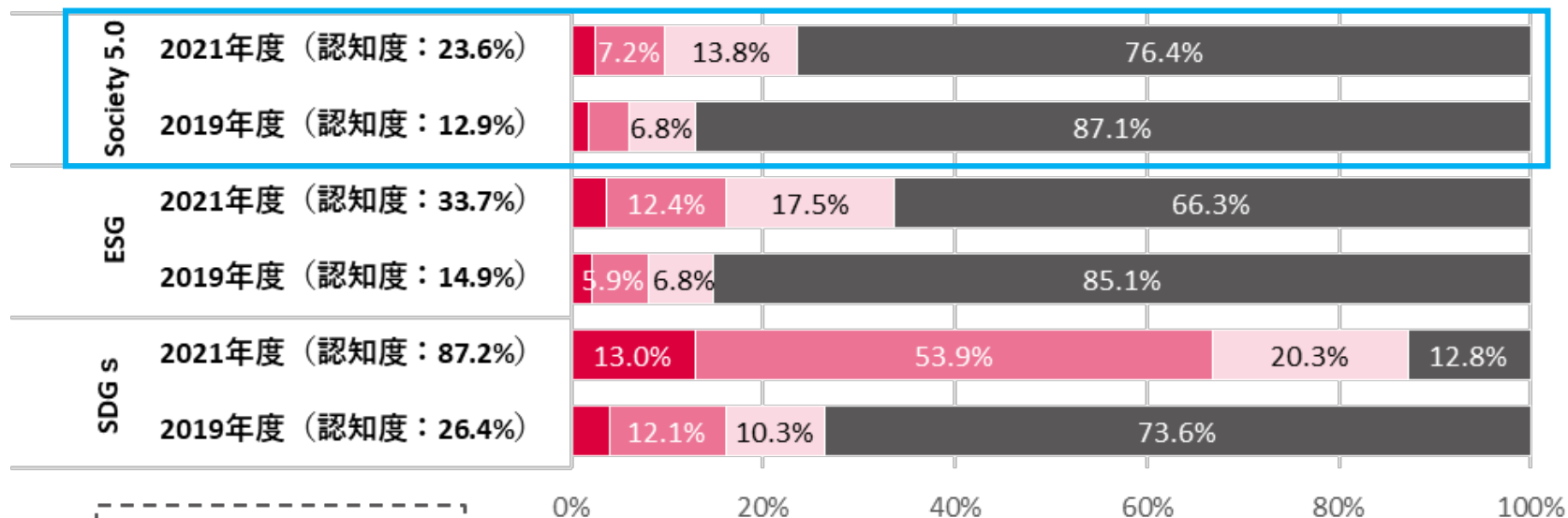
【設問文】それぞれの言葉について、あなたはどの程度知っていますか。[SA]

Society 5.0の認知度は2019年度より約10%増加

- Society 5.0の認知度は、2019年度の12.9%から2021年度の23.6%に向上
※2021年度の集計は、2019年度調査に合わせて10代～60代（計3,000回答）としている

用語の認知度（経年比較）

※5%未満は非表示



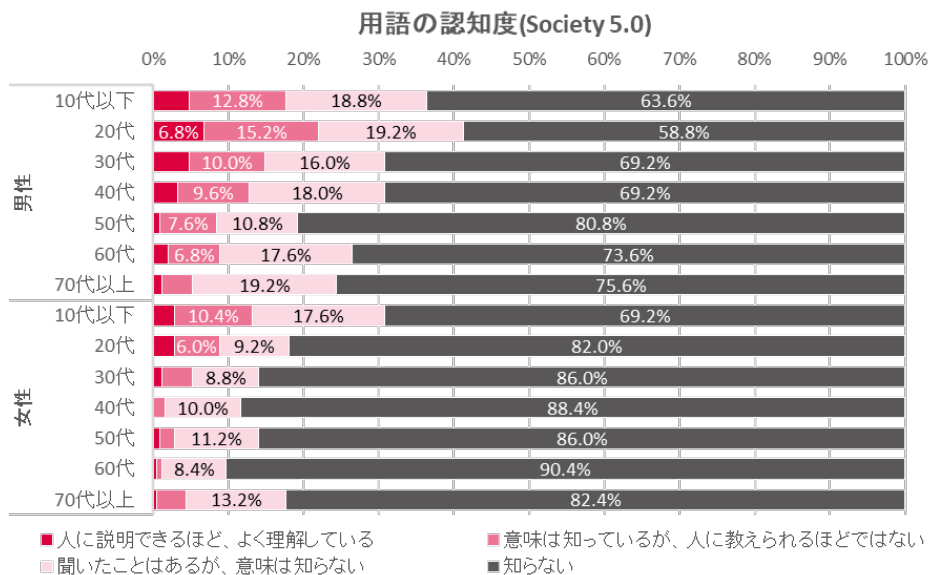
※10代～60代
 ※2021年度：N=3,000
 2019年度：N=3,241

- 人に説明できるほど、よく理解している
- 意味は知っているが、人に教えられるほどではない
- 聞いたことはあるが、意味は知らない
- 知らない

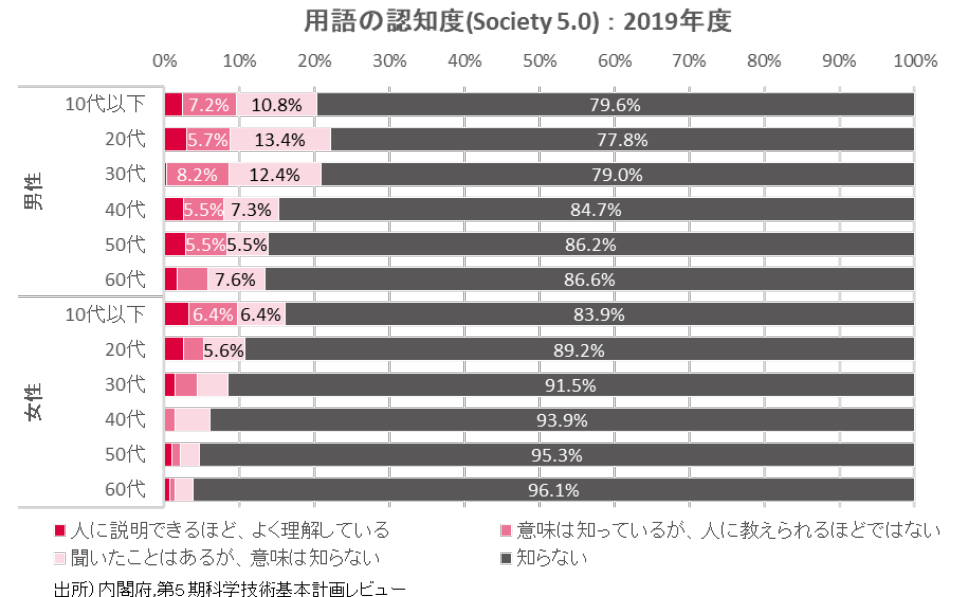
Society 5.0の認知度は若者の間で高く、男性において認知度が高い

- 「Society 5.0」の用語認知度を性別年代別にみると、20代男性が41.2%、10代以下男性が36.4%と認知度が高く、一方で60代女性は9.6%と最も低い
- 2019年度調査と比較すると、どの性別年代でも認知度は向上しているが、男性は特に20代、女性は10代以下が、それぞれ19.0%、14.7%と大きく認知度が向上（若者の間では、学校教育・SNS等がSociety 5.0を知った経路として特徴的）

2021年度調査



2019年度調査



※2019年度調査では70代以上のデータは無い

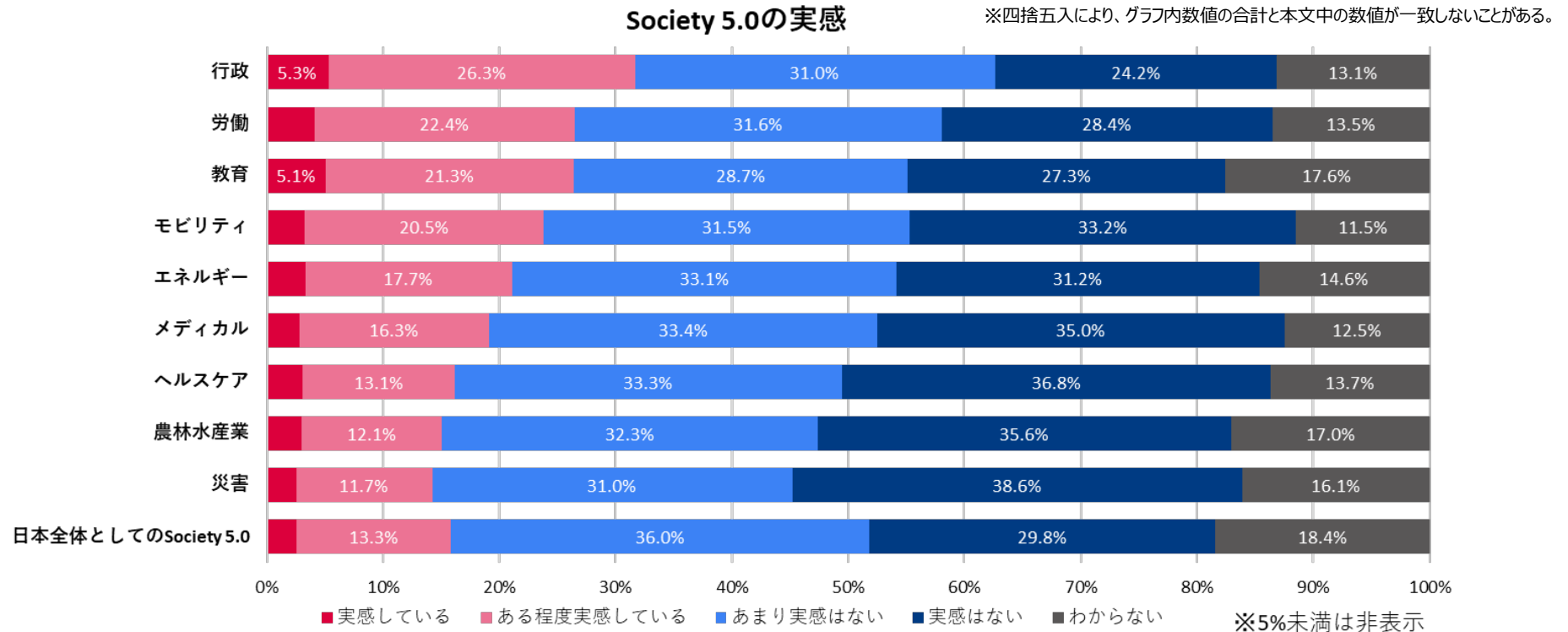
Society 5.0で実現する社会像に向けた変化の実感

Society 5.0に向けた変化として、 行政や労働等で実感が強く、ヘルスケア・災害等で実感が弱い

- 実感がある上位は、行政：31.7%、労働：26.5%、教育：26.4%
- 実感がない上位は、ヘルスケア：70.1%、災害：69.6%、メディカル：68.4%

実感がある：「実感している」「ある程度実感している」の合計

実感がない：「あまり実感はない」「実感はない」の合計



【設問文】Society 5.0で実現するそれぞれの社会像に向けた変化をあなたは実感していますか。[SA]

(補足) Society 5.0で実現する社会像

略称	社会像 (設問文)
行政	インターネットを通じて、いつでもどこでも手軽に行政サービスを受けられるようになる。
労働	従来よりも多様で困難な仕事を、AIや機械が人に代わってできるようになる。
教育	児童生徒に「1人1台端末」が用意され、学習履歴などの教育データを活用して、個別化された学習を受けられるようになる。
モビリティ	自動車・バス・電車等のAIによる自動運転が普及する。
エネルギー	CO2を排出しない発電方法やデータを活用した最適な発電が実現し、水素等の新しいエネルギーも活用した社会・生活になる。
メディカル	脈拍などのバイタルデータや行動データを収集・活用してAIが病気を診断し、ロボットやオンライン技術により遠隔で治療・診断できるようになる。
ヘルスケア	個人の健康・医療・介護に関する情報を一人ひとりが自分自身で生涯にわたって管理・活用するようになる。
農林水産業	AI等の技術や様々なデータが農林水産分野で活用され、従来よりも稼げる農林水産業が実現される。
災害	組織を超えたデータ連携による的確な災害対応が実現し、災害時には自動対話型のAIとチャットで相談できるようになる。